



Bulletin No. 5 (19 April 2008)

第一回斜面防災世界フォーラム

国際斜面災害研究計画(IPL)に関する 2006 年東京行動計画の実行に向けて

-地すべりと関連地球システム災害の地球規模での危険度軽減のための研究と学習の強化-

日時: 2008 年 11 月 18-21 日

場所: 国連大学、東京都渋谷区神宮前 5 丁目 53-70

主催

国際斜面災害研究機構(ICL), 国連教育科学文化機関 (ユネスコ), 世界気象機関 (WMO), 国連食糧農業機関(FAO), 国連国際防災戦略事務局(UN/ISDR), 国連大学(UNU), 国連環境計画(UNEP), 国連開発計画(UNDP), 世界銀行(IBRD), 国際科学会議 (ICSU), 世界工学団体連盟(WFEO), 京都大学 (KU), 日本地すべり学会 (JLS)

後援(予定)

内閣府, 外務省, 文部科学省, 農林水産省, 国土交通省, 気象庁, 国際協力機構, 日本学術会議, イタリア研究大学省, イタリア外務省, イタリア環境省, イタリア市民防衛部 (内閣府), 中国国土資源部, 韓国非常事態管理庁, スロバキア環境省, チェコ環境省, ペルー政府, フィリピン政府, 国際地質科学連合(IUGS), 国際測地学及び地球物理学連合(IUGG), 国際地理学連合(IGU), 国際洪水イニシアティブ (IFI), 国際惑星地球年 (IYPE), 日本森林木材環境アカデミー, アジア防災センター(ADRC)

国際組織委員会

名誉議長

Salvano BRICENO (国連防災戦略事務局 UN/ISDR 事務局長)
Jacques DIOUF (国連食糧農業機関 FAO 事務局長)
Konrad OSTERWALDER (国連大学長)
Michel JARRAUD (WMO 事務局長)
松浦晃一郎 (UNESCO 事務局長)
Gopverdhan METHA(国際科学会議 ICSU 会長)
西村周三 (京都大学副学長)

議長

佐々恭二 (ICL 会長, IPL 世界センター)

共同議長

Edward BROMHEAD (英国ロンドン大学, キングス学院教授)
Paolo CANUTI (ICL ヨーロッパセンター, イタリア・フローレンス大学教授)
Srikantha HERATH (国連大学上級学術計画官)
石原和弘 (京都大学防災研究所長)
Howard MOORE (国際科学会議 ICSU, 顧問)
Badaoui ROUHBAN (ユネスコ防災課長)
Robert SCHUSTER (米国地質調査所)

委員

Robert F. ADLER (アメリカ航空宇宙局 Goddard 宇宙飛行センター上級研究官)
Walter J. AMMANN (国際災害リスク会議-ダボス・委員長, スイス)
Peter BOBROWSKY (国際地質科学連合(IUGS)事務局長, カナダ)
Earl BRABB (国際地すべり研究グループ, 名誉会長, 米国)
Nicola CASAGLI (ICL ヨーロッパセンター長, フローレンス大学教授, イタリア)
福井 龍 (世界銀行・東京開発ラーニングセンターマネージャー)

Wolfgang EDER (ICL 技術顧問、ドイツ)
See Sew GUE (世界工学団体連盟(WFEO), マレーシア工学研究所)
Lynn HIGHLAND (米国地質調査所, 地すべり情報センター長)
Thomas HOFER (国連食糧農業機関林業担当官)
Alik ISMAIL-ZADEH (国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)・幹事長, ドイツ/ロシア)
Libor JANSKY (国際連合大学、学術審議官、ドイツ)
Dwikorita KARNAWATI (ガジヤマダ大学准教授、インドネシア)
Saroj Kumar JHA (世界銀行災害管理チーム主幹)
Suzanne LACASSE (ノルウェー地盤工学研究所・所長 (NGI)、ノルウェー)
Willy LACERDA (地すべりと人工斜面共同技術委員会 (IAEG, ISRM and ISSMGE : JTC-1)
委員長, ブラジル)
Peter LYTTLE (米国地質調査所地すべり災害計画コーディネーター)
丸井英明 ((社) 日本地すべり学会長、新潟大学災害復興科学センター教授)
Gordon MACBEAN (国際科学会議(ICSU)自然および人為的原因による環境災害に関する
研究計画作成委員長)
Claudio MARGOTTINI (イタリア環境省技術顧問、イタリア)
岡田憲夫 (日本自然災害学会長)
Luciano PICARELLI (ナポリ第二大学教授、イタリア)
Nuria SANZ (ユネスコ世界遺産センタープログラム主幹)
Hari SRINIVAS (国連環境計画都市環境管理担当官)
田邊 裕 (国際地理学連合・副会長)
Avinash TYAGI (世界気象機関水文及び水資源局長)
Yueping YIN (中国地質調査局環境地質部長)

国内組織委員会

実行委員会

委員長: 寶 馨 (ICL 理事長, 京都大学防災研究所教授)

副委員長:

落合博貴 ((社)日本地すべり学会副会長、(独) 森林総合研究所治山研究室長)

Roy SIDLE (京都大学防災研究所教授)

委員

千木良雅弘 (京都大学防災研究所教授)

檜垣大介 ((社) 日本地すべり学会事業部長)

釜井俊孝 (京都大学防災研究所教授)

小長井一男 (東京大学生産技術研究所教授)

宮城豊彦 ((社) 日本地すべり学会国際部長)

森脇 寛 ((独) 防災科学技術研究所企画部長)

笹原克夫 (高知大学農学部教授)

SHAW, R. (京都大学地球環境学学准教授)

鈴木弘二 (アジア防災センター長)

立川康人 (日本自然災害学会常任理事)

竹内邦良 ((独) 土木研究所・水災害・リスクマネジメント国際センター長)

東畑郁生 (東京大学工学系研究科教授)

綱木亮介 ((社) 日本地すべり学会専務理事、(財)砂防地すべり技術センター)

矢田部龍一 (愛媛大学工学部教授)

諮問委員会

アドバイザー:

今村能之 (内閣府総合科学技術会議政策統括官付企画官)

木村達哉 (気象庁総務部企画課国際室課長補佐)

西本晴男 (国土交通省砂防部火山・土石流対策官)

坂田章吉 (独) 国際協力機構地球環境部水資源・防災グループ長)
鳥巢英司 (内閣府災害予防担当参事官)
川野康郎 (農林水産省林野庁山地災害対策室長)
渡辺 淳 (文部科学省研究開発局防災科学技術推進室長)

学術アドバイザー：

亀田弘行 (京都大学名誉教授、(独) 防災科学技術研究所客員研究員)
嘉門雅史 (京都大学地球環境学学長)
岡田義光 ((独) 防災科学技術研究所理事長)
坂本忠彦 ((独) 土木研究所理事長)
平 朝彦 (日本学術会議)
高橋 保 ((財) 防災研究協会理事)
土岐憲三 (立命館大学歴史都市防災センター長)

実行委員会事務局

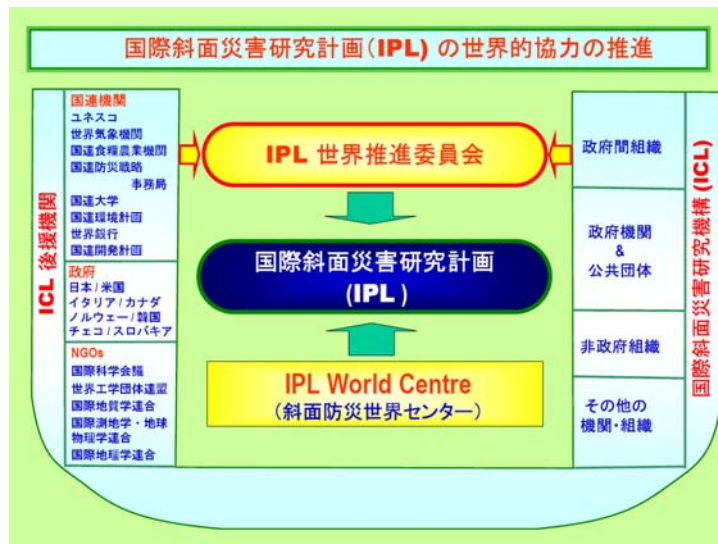
福岡 浩 (事務局長, ICL 財務理事, 京都大学防災研究所准教授)
永井 修 (副事務局長, ICL 研究支援職員)
浅野志穂 ((独) 森林総合研究所九州支所・主任研究員)
川崎昭如 (国際連合大学・リサーチフェロー)
小林健一郎 (京都大学生存基盤科学研究ユニット助教)
中島 皇 (京都大学フィールド科学研究センター講師)
太田英将 (太田ジオリサーチ・社長)
岡田康彦 ((独) 森林総合研究所治山研究室・研究員)
角崎悦子 (アジア防災センター)
汪 発武 (京都大学防災研究所助教, ICL 会長補佐)
王 功輝 (京都大学防災研究所助教, ICL Journal 編集長補佐)
上田美恵 (国際斜面災害研究機構事務補佐)

参加・協力要請

- 第一回斜面防災世界フォーラムは、斜面災害とその他の地球システム災害の軽減に貢献しようとするすべてのタイプの大学・研究所、国連機関、政府組織、民間、個人の地球規模での分野・機関を横断する情報交換と協力の場です。
- 今後十年間にわたる斜面災害と関連地球システム災害危険度軽減に向けた地球規模での協力の枠組構築と共同作業に向けて、貴方あるいは貴機関の本会議への積極的な参加と協力を要請いたします。

第一回斜面防災世界フォーラムの背景と目的

2006年1月に、国際斜面災害研究計画（IPL）に関する2006東京行動計画が関連国際機関によって採択された。その中で、国際斜面災害研究計画の地球規模協力ネットワークが提案され、国際斜面災害研究計画（IPL）世界推進委員会とIPLの地球規模協力分野での研究実行を調整及び支援するための事務局としてIPL世界センターが設立された。IPL世界推進委員会とIPL世界センター、ICL会員機関、ICL後援機関の関係が次図に示される。



斜面災害危険度を世界的に軽減するための協力の枠組みの構築と協力のための重点領域を特定するために2006年東京円卓会議「国連国際防災戦略における斜面災害に関する地球システム危険度解析と持続可能な災害管理についての研究と学習の強化—ダイナミックかつ地球規模でのネットワークをもつ国際斜面災害研究計画の構築を目指して」が、国連大学で開催され、2006東京行動計画が採択された。また、この行動計画は、国連防災世界会議で採択された兵庫行動枠組み2005-2015「災害に強い国・コミュニティの構築」の一部として実施されるものであると合意された。

東京行動計画の中で、斜面防災世界フォーラムを組織し、世界各地の学者、実務者、政治家、及びその他の斜面災害関係者に地球規模の分野縦断の問題解決型の場を提供することが提案されている。このブレチンは、2008年11月18-21日に国連大学で開催される第一回斜面防災フォーラムの組織について記述している。

第一回斜面防災世界フォーラムの目的は次の通りである。

1. 公開フォーラム、シンポジウム、ワークショップを通じて、地すべりに関する経験の交流と研究の推進

国連国際防災戦略における斜面災害に関する地球システム危険度解析と持続可能な災害管理についての研究と学習を強化するための各種会議を参加者グループによって異なるレベルで組織する。部屋割りや時間の配分はこれらの活動の便宜を図る。

2. 国際斜面災害研究計画の進歩と成果

下記にあげる地球規模協力分野における国際斜面災害研究計画に関する提案や報告の発表が計画されている。

国際斜面災害研究計画の地球規模協力分野

(1) 技術開発

- A. 監視と早期警戒
- B. ハザードマップ、脆弱性、および危険度評価
- (2) 重点地すべり (Targeted Landslides) : メカニズムとインパクト
 - A. 巨大災害を引き起こす地すべり
 - B. 遺産を脅かす地すべり
- (3) 能力開発
 - A: 人間・組織能力の強化
 - B: 情報・知識の収集・発信
- (4) 軽減、予防、復興
 - A. 予防
 - B. 軽減
 - C. 復興

3. 斜面災害危険度軽減のための世界的 COE の選定と推進

IPL 世界推進委員会は、斜面災害と関連地球システム災害対策に貢献する大学、研究所、NGO、および政府、地方公共団体のような組織を対象として、斜面災害世界 COE (WCoE) を 3 年毎に認定し、その活動を促進する。国レベルにおける WCoE との連携は、IPL との協力、知識・情報の発信の促進に役立つ。WCoE を保証するために、IPL 世界推進委員会によって設立される専門家パネルの委員が指名される。第一回 WCoE は専門家パネルの推薦に基づいて、IPL 世界推進委員会に承認し、第一回斜面防災世界フォーラムの最終日に公表する予定である。

第一回斜面防災世界フォーラムプログラム

イベント

1) **11月1-30日** 「世界の地すべりと斜面防災」 於：国際連合大学2階展示場
国際連合広報センター (UNIC) 主催

2) **11月11-15日** **サテライト会議および地すべり巡検**

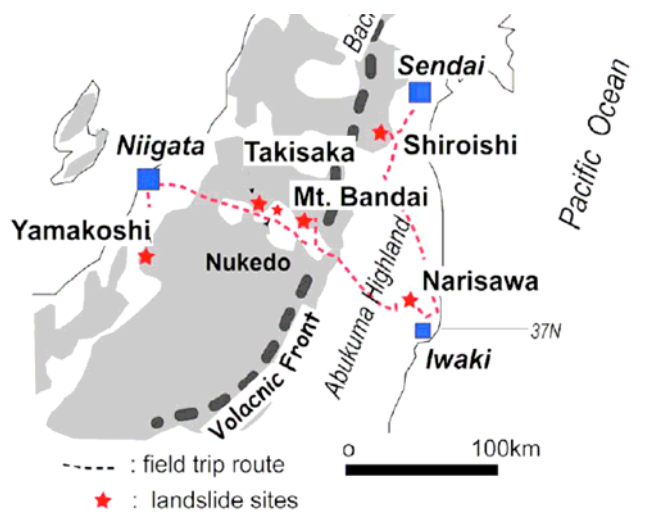
アジア・太平洋地域における地すべり災害の制御に関する国際会議

主催：(社) 日本地すべり学会・国際斜面災害研究機構 (ICL) ほか

場所：仙台市 (会議) 11-12日

巡検：仙台—白石地すべり—成沢地すべり—磐梯山—滝坂地すべり—新潟県山古志村地すべり

11月12日午後～15日夕方 (JR長岡駅解散)



11月18-21日 斜面防災世界フォーラム 於：国連大学各会場
(同時通訳付き)

11月18日(火)

- 9:00-10:30 主催者及び後援者による開会挨拶
11:00-12:30 オープンフォーラム“国際斜面災害研究計画に関する活動の進歩”
12:30-14:00 技術展示会 地すべりに関する新技術、事例研究報告
14:00 - 17:30 全体シンポジウム “地球規模斜面災害危険度軽減”
18:30 - 21:00 歓迎レセプション (青山学院大学アイビーホール)

11月19日(水)

- 9:00-10:30 全体セッション 基調講演
11:00-12:30 分科会1(4会場) テーマセッション、技術セッション他.
12:30-14:00 技術展示会 地すべりに関する新技術、事例研究報告
14:00- 15:30 分科会2
16:00 -17:30 分科会3
14:00-17:30 日本人市民向け特別分科会「社会と文化自然遺産を地すべりから守るために」
於：2階レセプションホール、入場無料、日本語

11月20日(木)

- 9:00-10:30 全体セッション 基調講演
11:00-12:30 分科会4 テーマセッション、技術セッション他.
12:30-14:00 技術展示会 地すべりに関する新技術、事例研究報告
14:00- 15:30 分科会5
16:00 -17:30 分科会6

11月21日(金)

- 9:00-10:00 全体セッション 基調スピーチおよび会議のレビュー
10:30-12:30 ハイレベル・パネル討論会
第二回斜面防災世界フォーラム(WLF-II in 2011)に向けて「斜面災害の経済社会的インパクトと地球変化--研究と災害危険度軽減」
14:00- 16:00 総括セッション
新IPLプロジェクトの発表, 結論文書の採択, 斜面災害危険度軽減に関する世界的CoE(WCoE)認定発表, ICL各賞(Varnes Medal, Best Paper Award, IPL Award of Success)の授与
16:30-17:30 プレスメーティング
19:30- 夕食会(フロラシオン青山1階宴会場ふじ)

第一回斜面防災世界フォーラム

	11月18日(火)	11月19日(水)	11月20日(木)	11月21日(金)
午前	開会式 共催機関・後援機関等の挨拶 オープンフォーラム 国際斜面災害研究計画(IPL)の進展	全体セッション 1 基調スピーチ/ 基調講演 分科会 1 (4セッション)	全体セッション 2 基調スピーチ/ 基調講演 分科会 3 (4セッション)	全体セッション 3 スピーチ/レビュー ハイレベルパネル討論会 斜面災害と地球変化が及ぼす社会経済的インパクト-研究と危険度軽減
昼	研究・技術展示とポスター	研究・技術展示とポスター	研究・技術展示とポスター	
午後	全体シンポジウム: 地球規模斜面災害危険度軽減	分科会 2 ・日本市民向け分科会「社会と文化自然遺産を地すべりから守るために」(日本語、無料参加) その他 6セッション	分科会 4 (6セッション) * IPL 世界推進委員会	総括セッション 新 IPL の発表 結論文書の採択 WCoE の採択発表 ICL 各賞の授与 メディア報告会
夕方	歓迎セッション (青山学院大学)		ワーキング・グループ会議	夕食会 (フロラシオン青山)

全体セッション

平成 20 年 11 月 18 日 (火)

1) オープニングセッション (9:00-10:15)

- 1) 会議のホスト (国際斜面災害研究機構、国際防災戦略事務局、日本政府、国連大、) からの開会及び歓迎挨拶
- 2) 共催国連機関と政府からの挨拶
- 3) 国際科学会議 (ICSU) ほか、NGO からの挨拶

2) オープンフォーラム「国際斜面災害研究計画(IPL)の進展」(10:45-12:30)

議長：Peter Lyttle (米国地質調査所), Paolo Canuti (ICL ヨーロッパセンター)

- (1) 国際斜面災害研究計画(IPL)の進展：IPL と斜面防災世界フォーラムの目的
佐々恭二 (ICL 会長)
- (2) IPL プロジェクト例の紹介
地球規模での地すべり災害危険箇所 (Hotspots) の評価
Farrokh Nadim (国際地盤災害研究センター, ノルウエー)
キルギスタン国天山山脈のココメルン川流域での岩盤すべりと関連した現象に関する国際サマースクール
Alexander Strom (地圏ダイナミクス研究所、ロシア)
マチュピチュアグアスカリエンテス地区での地すべり調査と人材育成
佐々恭二 (IPL 世界センター, 日本)
- (3) 討論
斜面災害研究計画の管理の紹介 (IPL Projects の一覧を含む)

3) 全体シンポジウム 「地球規模斜面災害危険度軽減」 (14:00-17:30)

議長: Peter Bobrowsky (カナダ地質調査所)、Edward Bromhead (英国・キングストン大学)

地すべり危険度評価と減災戦略

Suzanne Lacasse (ノルウェー地質工学研究所)

予測のための理解

Luciano Picarelli (イタリア第二ナポリ大学)

土石流災害軽減のための研究

高橋 保 (日本 (財) 防災研究協会)

海底マスマーブメントとその影響についてのレビュー

Jacques Locat (カナダ・ラバール大学)

総合討論：地球規模斜面災害危険度軽減

平成 20 年 11 月 19 日 (水)

基調講演 (9:00-10:30)

地すべりの抽出と移動計測への衛星隔測の応用

Vern Singroy (カナダリモートセンシングセンター)

大地震によって引き起こされる巨大地すべりとその後長期間続くリスク

小長井一男(東京大学)

空間、時間、気象変化を考慮した森林火災後に発生する土石流災害の評価

Susan Canon (米国地質調査所)

平成 20 年 11 月 20 日 (木)

基調講演(9:00-10:30)

21世紀の気候変動が地すべり災害危険度に及ぼす影響

John Clague (カナダ・サイモンフレーザー大学)

地球規模の変化: 開発に伴う地すべりとその影響

Thomas Glade (オーストリア・ウィーン大学)

大規模岩盤すべりの危険度評価と減災対策

Giovanni Barla (イタリア・トリノ大学)

平成 20 年 11 月 21 日 (金)

1) レビューセッション (9:00-10:00)

共催機関・国際的パートナーからの挨拶

セッションのレビュー

Wolfgang Eder (ドイツ・ミュンヘン大学)

2) ハイレベル・パネル討論 (10:30-12:30)

「地球規模の変化と斜面災害の社会経済的インパクトー研究と危険度軽減」ー2011 年第二回
斜面防災世界フォーラムに向けてー

3) 閉会セッション (14:00-16:00)

次期会長 Paolo Canuti のスピーチ

次期フォーラムのホスト機関・国連食糧農業機関(FAO)のスピーチ

2008 年東京宣言の採択。新 IPL プロジェクト、斜面災害危険度軽減に関する世界的 CoE (WCoEs)
の認定、各種の賞の授与

パラレルセッション (19-20 日に開催する分科会)

1. A look from space (宇宙から見る)

- 地すべりの探知とモニタリングのための衛星リモートセンシングの適用
- 衛星天気予報に基づく地すべり警報モデル
- 空中と地上センサーからのリモートセンシング
- 地球外の地すべり

Conveners: Nicola Casagli (フローレンス大学、イタリア), Robert Adler (NASA, アメリカ)
e-mail : session1@iclhq.org

2. Case Studies and National Experiences (ケーススタディーと国ごとの経験)

- 中央アジア、ラテンアメリカ、バルカン等、特定の地域の地すべり
- 黄土、quick-clays、火山、炭鉱、発電所地等の地すべり
- 復興、政策の変更、軽減策に関する各国の経験に焦点を当てたケーススタディー
- 地域あるいは国家的地すべりリスクに関する成功談のケーススタディー

Conveners: Srikantha Herath (国連大学、日本)
e-mail : session2@iclhq.org

3. Catastrophic slides and avalanches (大災害を引き起こす地すべり)

- 大規模な (メガ) 地すべり
- Palaeo landslides, avalanches and their dating
- 岩盤滑りダムとその崩壊
- Debris avalanches and lahars
- 環境的、社会経済的インパクト

Conveners: Aleksander Strom (地球力学研究所, ロシア),
Steve Evans (ウォータルー大学, カナダ)
e-mail : session3@iclhq.org

4. Climate change and slope instability (気候変動と地すべり)

- 気候変動シナリオと結果
- El Niño/La Niña、北大西洋振動の斜面不安定への影響
- 不規則なモンスーン性降雨
- 砂漠化、風化、浸食
- 氷河湖崩壊洪水
- 氷結土壌の地すべり

Conveners: John Clague (サイモンフレーザー大学, カナダ)
Marta Chiarle (水文地質トリノ研究所、イタリア)
e-mail : session4@iclhq.org

5. Landslides threatening heritage sites (文化遺産地区を脅かす地すべり)

- 考古学の古地すべりへの貢献
- 永続する文化遺産での地すべりリスク評価
- 地すべりに対する文化遺産の脆弱性: 物理的、社会経済的脆弱性
- 文化遺産保護に適した地すべりリスク軽減技術
- 文化遺産と地すべりに関する政策と advocates

Conveners: Edward Bromhead (キングストン大学、イギリス),
Paolo Canuti (フローレンス大学、イタリア), Claudio Margottini (環境省、イタリア)
e-mail : session5@iclhq.org

6. Economic and Social Impact of Landslides (斜面災害の経済社会的インパクト)

- 地すべりによる損失の推定
- 社会脆弱性
- 地すべりと土地利用政策のリンク
- 復興と再移住のケーススタディー
- 地すべりリスク軽減のための保険
- 地すべりリスク軽減のための投資

Conveners: Oddvar Kjekstad (ノールウエー地質工学研究所, ノールウエー)

Lynn Highland (米国地質調査所, アメリカ),
e-mail : session6@iclhq.org

7. Education, Capacity Building and Public Awareness for Disaster Reduction (防災のための教育, 人材育成、市民啓発)

- 自然災害軽減のための教育の重要性
- 自然災害軽減のための教育促進戦略
- 学校教員と地域リーダーの意識の向上
- ガイドラインと教育ツールの開発

Conveners: Badaoui Rouhban (ユネスコ、フランス), Rajib Shaw (京都大学、日本)
e-mail : session7@iclhq.org

8. Environmental Impact of Landslides (自然環境への影響)

- 河川、水域生態系への地すべりの影響
- 水質とportabilityへの地すべりの影響
- 陸域生態系、野生生物系への地すべりの影響
- 地球の地形と景観への地すべりの影響

Conveners: Marten Geertsema (ブリティッシュコロンビア森林サービス, カナダ)
Laura Vaugeois (米国ワシントン州資源局、アメリカ)
e-mail : session8@iclhq.org

9. International Cooperation Initiatives (関連の国際協力の枠組み)

- 災害軽減への国際プラットフォーム-UN/ISDR
- 地質科学国際研究計画(IGCP)-UNESCO/IUGS
- 国際水文計画 (IHP)-UNESCO
- Disaster Prevention and Mitigation (DPM) Program- WMO
- Global Facility for Disaster Reduction (GFDR) – World Bank
- 自然及び人的要因による環境災害と被害計画
- 統合地球観測戦略
- 国際洪水イニシアチブと国際土砂イニシアチブ
- Joint Technical Committee on Landslides and Engineered Slopes of ISSMGE, IAEG and ISRM.
- 国際惑星地球年

Conveners: Wolfgang Eder (国際斜面災害研究機構、ドイツ)
寶 馨 (京都大学、日本),
e-mail : session9@iclhq.org

10. Landslides in General (地すべり一般)

このセッションは他のセッションに含まれていない活動を扱う論文やポスターに対応する。

- 地すべり研究と調査
- 能力開発活動
- 地すべりリスク軽減活動

Conveners: WLF Secretariat, e-mail: session10@iclhq.org

11. Landslides and multi-hazards (地すべりと複合・連鎖災害)

- 地震起因の地すべり
- 地すべりと噴火
- マルチハザード評価でのドミノ効果
- 海洋地すべりと津波

Conveners: 丸井英明 (新潟大学、日本), Farrokh Nadim (ICG - NGI, ノルウェー)
e-mail : session11@iclhq.org

12. Mapping: Inventories, Susceptibility, Hazard and Risk (地すべり災害危険地図)

- 地すべりインベントリー
- 異なるスケールでの地すべりハザードとリスクマッピング法
- 国内・国際地すべりハザードとリスクマッピング戦略と計画

- 軽減策と土地利用計画政策とのリンク
- 発展途上国の地域スケールでの地すべりハザードとリスクの算定

Conveners: Javier Hervas (JRC, イタリア), Peter Bobrowsky (カナダ地質調査所、カナダ)
山岸宏光 (新潟大学、日本)
e-mail : session12@iclhq.org

13. Monitoring, prediction and early warning (計測・予知・早期警戒)

- モニタリングとデータ送信機器の技術的發展
- モニタリング、早期警戒、非難システム
- Modelling for triggering and runout for time and site prediction
- 多様な設定と規模で最も効果的な早期警戒システムは何か
- 地すべりとともに生きる、意識の向上

Conveners: 佐々恭二(国際斜面災害研究機構, Japan),
Luciano Picarelli (ナポリ第二大学, イタリア), Yin Yueping (中国地質調査所、中国)
e-mail : session13@iclhq.org

14. Policy and Institutional framework for Disaster Reduction (防災政策と防災制度の枠組)

- 地すべりとともに生きる、意識の向上
- 地すべり軽減とリスク削減政策
- 国家斜面マスタープランモデル
- 社会基盤と居住地開発のための地すべり軽減策の法律
- 調和と立法化の強化
- 実務家のためのガイドラインと知識キットの開発

Conveners: Gue See Saw (WFEO, マレーシア),
Dwikorita Karnawati (ガジャマダ大学, インドネシア)
e-mail : session14@iclhq.org

15. Rainfall, debris flows and wildfires (降雨、土石流、森林火災)

- 土石流, flowslides, 液化地すべり
- 降雨誘引の shallow-rapid landslides
- 森林火災の斜面不安定のへ影響
- 河川系での地すべり
- 防止策と浸食制御
- 地すべりハザードへの準備と対応のための国民意識の向上

Conveners: Jerome De Graff (米国フォレストサービス、アメリカ)
落合博貴 (森林総合研究所、日本)
e-mail : session15@iclhq.org

16. Risk Management Strategies in Urban Areas (都市域での災害軽減戦略)

- 地すべり災害軽減のための土地利用計画
- 不安定地域での計画と建設 – ガイドラインと建設規約
- 都市化における掘削と人口埋め立ての効果
- 地すべり災害からの復興
- 都市域での地すべり管理戦略
- 異なる国でのリスク移転メカニズム

Conveners: Villagran de Leon (国連大学、ドイツ), David Petley (ドウルハム大学、英国),
Nelson Fernandes (リオデジャネイロ連邦大学、ブラジル)
e-mail : session16@iclhq.org

17. Structural landslide disaster mitigation measures (斜面災害軽減対策)

- 地すべりのためのパイル、シャフト、地上アンカー
- 地下水、表流水排水システム
- 土石流災害軽減策

- 表層地すべりを誘引する風化の安定化と防止
- 岩石落下防止のための保護ネットとフェンス
- 雪崩の防止

Conveners: Mihail Popescu (イリノイ工科大学), 笹原克夫 (高知大学, 日本)
 e-mail : session17@iclhq.org

18. Watershed and Forest Management for Risk Reduction

(災害危険度軽減に資する溪流・森林管理)

- Effects of forest harvesting, mountain roads, prescribed burning
- 地すべり影響区域の修復のための森林再生
- 開発途上国での森林 conversion と再生戦略の効果
- 地すべりと土石流に対する森林保護
- 下流での社会的結果に伴う上流での森林管理実践
- 地すべりリスクを軽減するための流域管理政策

Conveners: Thomas Hoffer (国連食糧農業機関, イタリア), Roy Sidle (京都大学, 日本)
 Libor Jansky (国連大学, ドイツ)
 e-mail : session18@iclhq.org

Other parallel activities (他の分科会)

P1. Exhibition of Landslides and Risk Mitigation of the World on 1-30 November

世界の地すべりと斜面防災の展示

世界の地すべりとリスク軽減のための展示品が国連情報センター (UNIC) により国連大学二階の展示ホールで公開される。地すべりメカニズム、調査、リスク軽減策に関する写真、ポスター、ビデオが展示される。展示は無料だが、一ヶ月の展示にあたり国民の意識向上、地すべり教育のために協力が要請される。

Contact: 寶 馨 (takara@flood.dpri.kyoto-u.ac.jp, 日本)
 福岡浩 (fukuoka@landslide.dpri.kyoto-u.ac.jp: 日本)

P2. Public Forum “Protection of Society and Cultural and Natural Heritage from Landslides”.

公開フォーラム「社会と文化自然遺産を地すべりから守るために」

日本の市民や次世代を支える青少年、子供達に地すべりの重要性を理解してもらうために、日本語での公開フォーラムが実施される。国際的リーダーや日本の地すべり専門家による地すべり研究と学習の重要性、地すべりって何？ どのように調査するの？ 社会と文化遺産地区(マチュピチュ、パーミヤン)の防災等についての分かり易い説明がなされる。また、地元住民あるいは地方自治体職員による地すべり災害と災害復興について経験談、災害を受けた地元の子供達による地すべり研究の発表が検討されている。公開フォーラムの部屋は、世界の地すべりとその災害危険度軽減方法の展示会場 (平成20年度11月1-30日) と続いており、市民や子供達は展示と講演の両方から地すべりに関する知識を得ることができる。

Contact: 佐々恭二 (sassa@iclhq.org: 日本)
 丸井英明(maruhi@cc.niigata-u.ac.jp: 日本)

P3. Dialogues on country landslide issues 各国の地すべり問題についての意見交換会

政府高官、開発者、開発計画と土地管理のマネージャとして地すべり問題にかかわる人々が参加し、各国の地すべり問題について自由に意見と情報の交換を行う。論文の準備の必要はない。

Contact: Srikantha Herath (herath@hq.unu.edu: 国連大学, 東京)

P4. Consultation of specific landslides 個別の地すべりについての相談会

解決が難しい特定の地すべり問題に関わり苦心している人々は、国際協力のもと問題に取り組むために問題を紹介するよう求められる。その地すべりに関して (自由書式で) 概要を示した文書が事前に、可能であるならば参加者で協力できる組織、グループ、あるいは個人名とともに、紹介されることが求められる。地すべりの専門家はそれにボランティアとして参加することが求められる。

Contact: wlf@iclhq.org

本会議

Date	Time	Room	イベントとプログラム
11月 17日 (Mon)	9:00-12:30	Room B (Rose Hall)	第7回 ICL 代表委員会議
	14:00-17:30		第3回 IPL 世界促進委員会 (サテライト会議：日本のユネスコ防災関連 UNITWIN/UNESCO Chair プログラム合同集会（日本語）, Utant Hall
11月 18日	9:00-10:30	Room A	主催者、共催者からの開会挨拶
	11:00-12:30	(Utant Hall)	公開討論会「IPL 活動の進捗」
	14:00-17:30	Room A (Utant Hall)	全体シンポジウム“地球規模斜面災害危険度軽減” <ul style="list-style-type: none"> ● 斜面災害危険度評価と防災戦略 (Suzanne Lacasse, ノルウエー) ● 予知のための理解 (Luciano Picarelli, イタリア) ● 土石流災害軽減にむけた研究 (高橋保, 日本) ● 海底マスマーブメントとその影響のビュー (Jacques Locat, カナダ)
18:30-21:00	青山学院大学 (Ivy Hall)	歓迎レセプション	
11月 19日	9:00-10:30	Room A (Utant Hall)	基調講演
11月 20日	9:00-10:30	Room A (Utant Hall)	基調講演
11月 21日 (金)	9:00-10:00	Room A (Utant Hall)	基調演説及び 11月18日から20日までの会議のレビュー
	10:30-12:30	Room A (Utant Hall)	ハイレベル・パネル討論会 「地球規模の変化と斜面災害の社会経済的インパクトー研究と危険度軽減」ー2011年第二回斜面防災世界フォーラムに向けてー
	14:00-16:00	Room A (Utant Hall)	閉会式: 成果文書の採択 新たな IPL プロジェクトの発表, WCoE の推薦 ICL 賞の授与 (Varnes メダル, 最優秀論文賞, IPL サクセス賞) 次期主催組織による 2011 年第 2 回 WLF への歓迎挨拶
	16:30-17:30	Room B (Rose Hall)	記者会見
	19:30-21:30	Floracion Aoyama	ディナー

分科会（11月19、20日）

日程	時間	Room A(Theater) Utant Hall, 3F	Room B (Round + School) Elizabeth Rose Hall ,5F	Room C (Chairs) Reception Hall, 2F	Room D (Round) Committee Room 2, 5F
11月19日 (水曜日)	9:00-10:30	Room A での基調講演			
	11:00-12:30	宇宙から見る (1)	防災のための教育、人材育成、 市民啓発(7)	地すべり災害危険地図 (12)	関連の国際協力の枠組み (9)
	12:30-14:00	Utant Hall, 3-4 Floor 付近での、研究、組織、器具のポスター発表 世界の地すべりと斜面防災の展示(11月1日-30日), 2 Floor (P1)			
	14:00-15:30	地すべりと複合・連鎖災害 (11)	災害危険度軽減に資する溪流・ 森林管理 (18)	公開フォーラム「社会と文化自然遺産を地すべりから 守るために」(P2)	各国の地すべり問題に ついての意見交換会 (P3)
	16:00-17:30	計測・予知・早期警戒 (13)	文化遺産地区を脅かす地すべり (5)		個別の地すべりについて の相談会 (P4)
11月20日 (木曜日)	9:00-10:30	Room A での基調講演			
	11:00-12:30	降雨、土石流、森林火災 (15)	都市域での災害軽減戦略 (16)	斜面災害の経済社会的イン パクト (6)	地すべり一般 (10)
	12:30-14:00	Utant Hall, 3-4 Floor 付近での、研究、組織、器具のポスター発表 世界の地すべりと斜面防災の展示(11月1日-30日), 2 Floor (P1)			
	14:00-15:30	気候変動と地すべり (4)	斜面災害軽減対策 (17)	自然環境への影響 (8)	IPL 世界推進会議 (委員のみ)
	16:00-17:30	大災害を引き起こす地すべり (3)	ケーススタディと国ごとの 経験 (2)	防災政策と防災制度の枠組 み (14)	

準備日程

日程	活動	連絡先
<u>1 July 2008</u>	斜面防災フォーラムでの口頭・ポスター発表の登録用紙、アブストラクトの提出期限	To: wlf@iclhq.org and Conveners of each session session1@iclhq.org session2@iclhq.org session <i>N</i> @iclhq.org (<i>N</i> = 3 – 18)
<u>1 September 2008</u>	プロシーディング(4 頁/paper)とウェブプロシーディング(4-20 頁/paper)への原稿提出期限 会議の最終プログラムは受諾された論文と参加者に基づいて決定される	To: Conveners of each session session1@iclhq.org session2@iclhq.org session <i>N</i> @iclhq.org (<i>N</i> = 3 – 18)
1 - 30 November 2008	国連情報センターにおける世界の地すべりとリスク軽減に関する展示	国連大学の展示室 (2階)
11-15 November 2008	アジア太平洋地域での地すべりハザード管理の衛星会議、現地見学 “大規模地すべりと地震時地すべり”	仙台市 宮城、福島、新潟県の地すべりサイト
18-21 November 2008	第一回斜面防災世界フォーラム	国連大学

第一回斜面防災世界フォーラム事務局

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学宇治構内, **UNITWIN** 計画本部棟

Tel: 0774-38-4834, Fax:0774-38-4019, E-mail: wlf@iclhq.org

参加者への旅費支援申請書

旅行資金援助が必要な人は下記の申請書に記入し2008年5月1日までに wlf@iclhq.org に返送してください。申請は検討され、結果は9月末までに伝えられます。

Application Form of Financial Supports

Name	
Office	
Address	
E-mail and Fax/Tel	
Title of Presentation	
No/Title of the first preferred session	
No/Title of the second preferred session	
Necessary Minimum Amount (select one by deleting others)	
1	330,000 JPY including registration fee (49,000 JPY)
2	220,000 JPY including registration fee
3	110,000 JPY including registration fee
4	50,000 JPY including registration fee
Priority category (select one or two suitable cases by deleting others)	
1	Priority for full support (Travel, Accommodation and Registration fee) will be given to those individuals who are not landslide specialists, but their involvement is essential given their potential influence and contribution to the development of the landslide community.
2	Priority will be given to those from developing countries or young researchers/engineers that are able and willing to contribute to landslide risk reduction, but are not able to raise funds to participate.
3	Priority will be given to internationally recognized excellent speakers that are capable of attracting an audience with high scientific credibility.
4	Priority will be given to those individuals that have a strong potential to contribute for the further development of WLF (2nd Forum in 2011) and global landslide risk reduction who do not have sufficient financial resources.
Justification (Please elaborate on your needs below)	



ICL(国際斜面災害研究機構)

国際斜面災害研究機構は社会と環境に資するための
斜面災害研究及び能力開発を促進するための特定非営利活動法人である。

会長: 佐々恭二 (京都大学名誉教授)

副会長: Peter Bobrowsky (カナダ地質調査所) / Paolo Canuti (イタリア国・フィレンツェ大学)
Oddvar Kjekstad (ノルウェー・国際地盤災害センター) / Peter Lyttle (米国地質調査所)

ICL 後援機関

国連教育科学文化機関 (ユネスコ), 世界気象機関 (WMO), 国連食糧農業機関 (FAO), 国連国際防災戦略事務局 (UN/ISDR), 国際連合大学 (UNU), 国際科学会議(ICSU), 国際工学団体連盟(WFEO), 国際地質学連合 (IUGS) / 日本, アメリカ, イタリア, カナダ, ノルウェー, 韓国, チェコ, スロバキア政府

ICL 会員機関

カナダ地質調査所 / 中国科学院成都山地災害環境研究所 / 中国・吉林大学・環境地質災害研究所 / 中国・西安市華清池地すべり観測所 / 中国・東北林業大学 / 中国・西安交通大学土木工学科 / 中国三峡大学地質災害防治研究院 / 中国地質調査局 / コロンビア国立大学工学部 / チェコ・チャールズ大学・理学部 / ドイツ・Darmstadt 工科大学・地盤工学研究センター / エチオピア・メケル大学 / イラン・建築住宅研究センター / イラン・国際地震工学地震学研究所(IIEES) / イラン農業研究教育機関 (AREO) / イタリア・欧州委員会共同研究センター (IPSC/HSU) / イタリア国・フィレンツェ大学・地球科学部 / インドネシア地質庁環境地質研究センター / インドネシアガジャマダ大学 / 愛媛大学工学部 / (独法) 森林総合研究所 / (社)日本地すべり学会 / 京都大学防災研究所防災技術政策研究分野 / 京都大学防災研究所斜面災害研究センター / 新潟大学災害復興科学センター / 東京大学(生産研究所, 地盤工学研究グループ) / 韓国地質鉱産研究所(KIGAM) / マレーシア・マラ工科大学 / ネパール・国際山地統合開発センター (ICIMOD) / ノルウェー・国際地盤災害センター / ペルー・Grudec Ayar 社 / ルーマニア・工科大学土木工学科 / ロシア・連邦国家地質事業団「地域監視センター」 / ロシア科学アカデミー環境地球科学研究所(IEGRAS) / ロシア科学アカデミー地圏ダイナミクス研究所 / ロシア・統合エネルギーシステム工学センター株式会社 / ロシア・防災技術(Engprotection) / スロバキア・コメニウス大学自然科学部応用地質学科 / スロベニア・リュブリアナ大学・土木・測地工学科 / スウェーデン地盤工学研究所 / スイス連邦雪・雪崩研究所(SLF) / タイ国農業協同省・土地開発局 / 米国地質調査所 / アメリカ航空宇宙局 Goddard 宇宙飛行センター / ウズベキスタン国家地質委員会・水文地質研究所

ICL 賛助機関

株式会社マルイ / 株式会社エイトコンサルタント / 財団法人地域地盤環境研究所 / 五大開発株式会社 / 国土防災技術株式会社 / 国際航業株式会社 / 株式会社興和 / 日本工営株式会社 / 有限会社太田ジオリサーチ / 株式会社オサシ・テクノス / 応用地質株式会社 / 株式会社計算力学研究センター / 財団法人砂防・地すべり技術センター / 坂田電機株式会社

連絡先:

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学宇治構内, UNITWIN 計画本部棟
Tel: 0774-38-4834, Fax:0774-38-4019
E-mail: secretariat@iclhq.org